

第五回留学報告書

2015 年度 FOS 奨学生 福井真夫

1 人生で最後の試験

今日(5月24日)で人生最後の試験が終わった(落第していなければだが)。いくつかの経済学
の分野の中から、2つを選んで筆記試験を受けるというものだ。国際経済学とマクロ経済学の試
験を受けた。国際経済学は、「なぜ貿易をするのか?」、「貿易をすることは一国にとってどれ
ほど良いことなのか?」といった問いを理解することを目指すものだ。マクロ経済学はもっと多
岐にわたっており、「なぜ国は成長し続けるのか?」、「どうして近年、所得や富がより不平等
になっているのか?」、「金融政策がどうして経済を刺激するのか?」といった問いに対する理
解を深めようとするものだ。これからは授業を一切取らずに、研究に専念してくださいといふこ
とになる。ある教授が、「この筆記試験が終わった直後が Ph.D.で最も幸せな瞬間だよ。これか
ら卒業まで幸福度は単調減少だから!」と言っていたが、上級生を見ていると確かにそんな印象
を受ける。

経済学は基本的に、博士論文の研究テーマを学生が自分で見つけなければならない。授業主体
だった1-2年生は、「何をすれば良いか」というのははっきりと決められていた。それに対して
今後は自分で「何をするか」を決めなければならない。この違いに直面して苦しむ上級生が多い
という話はよく聞く。僕がどうなるかはわからないが、そうした違いをなるべく楽しめるように
心がけていきたい。